

世界中で知的財産権確保を強める中国企業に日本企業は
どう対抗すればいいのか。中国で特許出願や特許調査など
を手がける日本アイアールの矢間伸次社長に聞いた。

日本アイアール社長 **やまのぶじ 矢間 伸次氏**

インタビュー



69年（昭44）芝浦工大機械工学卒、同年リコー入社。特許調査などの日本アイアールを74年に設立。山口県出身、67歳。

特許戦争は言語の戦争

「中国が高速鉄道の高
術特許を国際出願するな
ど知財戦略を強化してい
ます。どう見ますか。」
「中国版新幹線ビジネ
スを開発したい中国
は、国を挙げて取りにい
く。日本からの技術導入
に触れないわけにはいか
ないが、米国なら米国で
企業が特許を侵害してい

ると主張しても勝つのは
難しいかもしれない」
「なぜですか。」
「日本企業がどういう
特許を出願し、米国で権
利化しているかわからな
い、中国に對抗できる
特許明細書は日本企業に
おそろくないだろう。日
本の特許明細書は国内で
しか通用しない。グロー
バル社会に通用する国際
標準型の特許明細書にし
ないといけないが、まず
なっていないはずだ」
「日本の特許明細書は
どうして世界に通用しな
いのですか。」
「日本の特許は完全に
閉鎖された特許村で、
グローバル化されていな
い。日本人が読んでも何
を言っているのか意味不
明なのが日本の特許明細
書の欠陥だ。強い特許に
するため権利を入念に囲
い込まないといけないの
に、その力がない」
「意味不明な日本語を
ただ翻訳し、海外で権利
を取っているからといっ
て安心してはいけない。
海外の特許庁もしよせん
行政機関。登録させてお

い

実用新案上手に使う